

野山でのマダニに、ご注意！

春から夏にかけては、マダニの活動が活発化しています。

例年、野山でマダニに咬まれて、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱などの病気になった例が全国的に報告されています。大阪府内においても、2017年、2018年にマダニに咬まれてSFTSを発症した方が報告され、日本紅斑熱は、2019年にも8名の報告がありました。

これらの感染症にかからないためには、まず、マダニに咬まれないように対策をとることが大切です。対策を以下に紹介します。

<マダニに咬まれないために・・・>

- ・草むらなどに入るときは、長そで、長ズボンを着用し、肌の露出を少なくしましょう。
*隙間からマダニなどが入り込まないように服装を心がけましょう（裾を長靴に入れる、靴下をズボンの上に重ねるようにして履くなど）。
- ・*靴や服の上から虫除けスプレーをかけることは効果があります。
- ・家に入る前に上着や作業着などを脱ぎ、マダニなどを家に持ち込まないようにしましょう。
- ・草むらから帰った後は、すぐに入浴し、体にマダニがついていないか確認しましょう。

<マダニに咬まれたら・・・>

- ・マダニは、皮膚に口を突っ込んで吸血するので、無理に引き抜くと先がちぎれて体内に残ります。吸血中のマダニに気づいたときは、早めに医療機関で処置してもらってください。
- ・マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化がないか注意し、発熱等の症状があった場合は、医療機関へ受診をお願いします（医療機関の受診の際には、マダニに咬まれたと担当医師へお伝えください）

参考：マダニ等による感染症に注意しましょう！（大阪府ホームページ）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/iryo/osakakansensho/sfts.html>

参考：マダニ対策、今できること（国立感染症研究所ホームページ）

<http://www.nih.go.jp/niid/images/ent/PDF/madanitaisaku20131105.pdf>

マダニが媒介する 感染症

	潜伏期間	症状
SFTS	6日から2週間	発熱、消化器症状、全身倦怠感など
日本紅斑熱	2から8日	発熱、頭痛、発疹、全身倦怠感など

マダニについて

野外にいる吸血性の大型のダニ（1から4mm）です。野山や公園の草むら、畑、あぜ道などにも生息しています。春から秋（3月から11月）にかけて活動が活発になりますが、冬季も活動する種類もいます。マダニに咬まれても、痛みやかゆみなどを感じることはありません。

マダニの姿は大きく変化します

（写真はカガリキマダニです）

吸血前



1から4mm

吸血後



体重は100倍以上に。

写真提供：(地独)大阪健康安全基盤研究所